のげ青通信

のげ青通信とは、世田谷区野毛にある若者たちの交流スペース「世田谷区立野毛青少年交流センター」の活動を中心に、野毛地域のいろいろな情報を発信する情報誌です。

NO.9
2017.1.20 発行

ココイルだより

ココイルチャレンジ期間！

カフェココイルでは、この3ヶ月間、地域の方々や応援団の皆さんのご協力を得て、様々なことを体験しました。地域イベントの出張カフェでは、商店街の方々がメンバーの顔を覚えていて温かい応援の声をかけてくださいました。
また、メンバーの特技を生かしたものづくりやストレッチダンス、小学生たちとのメニュー開発、地域の応援団の協力を得て実施したエコ布染やキャンドルづくりやスリランカカレーづくりといった多彩なコラボワークショップでは新たな仲間が増えました。そんな時を振り返って「応援して下さる方がいたからここまでこれたかなって思う」と言ったメンバーの言葉に一同頷いています。

のげ青庭部

第2回「火と土のワークショップ」開催！

10月22・23日と11月6日の3日間にわたり、第2回「火と土のワークショップ」を実施しました！
6月に実施した前回に引き続き、アースオーブンとストローベイルベンチづくり、ラウンジスペースの壁塗り作業を行いました。
ラウンジでの作業をしていたグループからは、内装のアイディアや、完成したらどんな場所として使って行こうかといった声が聞こえてきました。みんなで作り上げてきたことで、「自分たちの場所」として大事にしたい、メンバーたちのそんな思いが生まれています。
次回のワークショップで完成予定です！

Future-Hub project

地域懇談会・施設見学会を実施！

12月10日（土）に、別館のリニューアルオープンを機に、地域の方々にのげ青のことを知ってもらうための、地域懇談会および施設見学会を実施しました。当日は、地域や利用者の保護者、青少年に関わる団体や近隣の学校の校長先生・児童館の館長さんなど、約20名の方々にご参加いただきました。別館を中心にのげ青全体の見学、センター長からのげ青での取り組みの報告の後に、様々な立場からのげ青の事業やあり方などについてご意見をいただきました。

のげ青の日常

地域のもちつき大会に参加しました。

12月18日（日）はもちつきDay！同日に開催された野毛六所神社もちつき大会、そして等々力商店街もちつき大会に参加しました！
杵を始めて持ったメンバーからは「ずっとやりたいと思っていたけど難しい！」と感想をこぼしながら、皆さんのアドバイスをもらいつつ、徐々に上手くなっていく姿が見られました。また、等々力商店街もちつき大会ではココイルの出張出店、会議用のお茶菓子提供もさせていただきました。地域の皆様の見守りや応援をいただき、日々の活動の励みとなった一日でした。

のげ青の人々。

ユースワーカー 藤本 裕治郎（ゆうじろう）さん

こんにちは、のげ青スタッフの藤本です。アニメ、ゲーム、漫画etc。色んな話題で皆と話が出来たらなぁと思っています。今まで来てた人も、これからのげ青に来る人にも「安心して来られる、また来たい」と思ってもらえるような場にしていきたいなぁと思っています。

普段来ているメンバーからは「もっちゃん」という愛称で呼ばれています。
皆も気軽に話しかけてね～。

のげ青掲示板

■第二回 居場所シンポジウムの開催
フューチャーハブ（別館における若者の活動と学びの場）のオープンを記念し、居場所の意義やそこでの若者にとっての価値のあり方について学ぶシンポジウムを開催いたします。

日時：1月22日（日）14：30～17：30
内容1：基調報告「北欧型ユースセンターの実践報告」
報告者：両角達平氏（ストックホルム大学国際比較教育修士課程在籍 / 東京大学教育学部特別研究生）
内容2：若者セッション「これからののげ青のあり方を考えるセッション」
登壇者：両角達平 氏　フューチャーハブ実行委員会を中心とした若者　のげ青スタッフ
駒澤大学 萩原建次郎 氏（コーディネーター）

■のげ青フェスティバルの開催
のげ青で活動する若者達が地域の協力者や関係団体と一緒に作り上げるイベント、のげ青フェスを今年も開催いたします。今年度の締めくくりとして子どもたち・若者たちの活動発表もあります。ぜひご来場ください。

日時：2月12日（日）11：00～17：00
主催：世田谷区立 野毛青少年交流センター
協力団体：NPO法人せたがや水辺デザインネットワーク、T・B・T（多摩川ブロック児童館Teens＆玉川地域児童館（等々力、玉川台、深沢、上用賀、新町、森の児童館））、NPO法人ら・ら・ら、メルクマールせたがや　他

世田谷区立
野毛青少年交流センター
〒158-0092 東京都 世田谷区 野毛2-15-19
TEL 03-3702-4587/ FAX 03-6809-8739
mail nogesei@npobunka.net / twitter @nogesei_youth
https://www.facebook.com/nogesei0510

のげ青 facebookページ絶賛更新中！
QRコードからアクセスしてみよう!!

ノゲセイフューチャーハブ

オープニングシンポジウムを開催しました！

改修工事が終わり、別館2階、3階がフューチャーハブとしてリニューアルオープンすることになりました。それに伴いフューチャーハブを、のげ青をどのような場所にしていくのか、のげ青に集うみんなで考えていく一歩としてシンポジウムを開催しました。

保坂展人 区長

駒澤大学教授萩原建次郎先生の基調講演、区長をお招きしての若者トークセッションと充実した内容になりました。第1部の萩原先生による基調講演では、現在の青少年を取り巻く社会状況や青少年活動における具体的な実践例を交えながら、子どもから若者へ、さらに大人になるために必要な時間と場所である若者の居場所＝「自己形成空間」の減少と現在におけるその必要性をお話いただきました。

では、いまの若者の「自己形成空間」を私たちはどう創り出せばいいのか？萩原先生のお話を受け、議論がつながっていきます。第2部の若者トークセッションは、『「社会の手触りのなさ」は自分たちに漠然とした不安を生み出している。区長と対話する中で、不安を解決するヒントを得たい。そして、社会が自分たちとは関係のないところでつくられているわけではないという実感を得たい』と若者たちが区長に語りかけスタートしました。「区長が若者支援に力を入れるようになった原体験はなんなのか？」「自分がのげ青で感じた居場所の条件は『無条件に受け入れられる場であること』だった。区長が思う居場所の条件は何か？」「居場所をつくっていくために必要な若者の参加参画の難しさについてどのように考えているか？」質問が次々と区長に投げかけられました。

区長も立場を超え、一人の人生の先輩として若者に向かい合ってくださいました。ご自身の若者時代をふりかえり、区長は語ります。「若者が社会参加するためには若者が社会からのプレッシャーを受けずに過ごすことのできる『助走期間』が必要である」、その上で「若者が議論し、活動することで何かを生み出すことを学ぶことができる場所が必要だ」と。区長の率直な言葉に、真剣な表情で耳を傾けていた若者たちは「区長と話して、何かできるんじゃないかという希望をいただいた」と感想を述べ、区長も「もっともっとこういう機会を開いてほしい。がんばってください」と応えました。
区長とつながることができた感動、これからフューチャーハブを舞台になにかが始まるんじゃないかという期待感、高揚感に包まれながら会は幕を閉じました。

萩原建次郎 氏

今回のシンポジウム、準備段階では最初うまく言葉にすることができなかったメンバーたちですが、自分たちの持つ不安や居場所について、仲間と共に考え、議論しながら言葉を創ってきました。そんな彼らの感想が次ページに記載されているので、是非ご覧ください！

ノゲセイフューチャーハブとは

若者たちによる主体的な活動を展開するためのハブ的スペースです。ライブラリーやミーティングスペース、演劇やライブ活動ができる創作活動室など、活動内容に合わせて利用できます。

NOGESEI VOICE

シンポジウムに参加した
若者たちの声を集めました!

Q どんな想いで シンポジウムを準備した?

NOGESEI Voice 1

自分の体験談も交えながら感情を うまく伝えられるように準備してきた

岡田　朱里(じゅり)さん

今回のシンポジウムの準備で改めて私自身が何に悩んでいるか、何を不安に思っているか考えてみた。その結果、私の将来に対する不安と今までの活動に対する負の感情が現れた。この感情をそのままストレートに伝えようと思った。けれど、そのまま伝えても「思ったこと」を伝えても今までの繰り返しになる。だから、自分の体験談も交えながら感情をうまく伝えられるように準備してきた。少しでも私の感情が伝わってくれたら嬉しいな。

NOGESEI Voice 2

何か抱えているものを、とにかく伝えたくて、準備してきた

清水　里栄(さとえ)さん

皆や自分自身の生きづらさ、
というと偏るので、何か抱えているものを、とにかく伝えたくて、準備してきた。
それを言葉に出来たのなら、今の私にとって、野毛青が足下にあってほしいという思いも骨組みがしっかりして伝えられる気がしたから。
でも、最終的に、言葉になったものは漠然としていましたが(笑)
まあ、それでも、話し合いのなか言葉を貰っている気がして、それがとても楽しくて、これからもこんな関わり合いがしたい、と思えました。
それぞれの抱えているものとかはやっぱり、まとめようも、実際まとまりようもないし、会議は長引くは踊ってしまったりはしたけれど、一緒にやってきたメンバーのことも、自分自身のことも少しは知れた気がしたので、そういう時間も含めて大切だなって。

NOGESEI Voice 3

しゃべっている内容以上に 不思議な充足感があった

山本　悠(ゆう)くん

不思議な感動があった、という事をまず言っておきたい。感動、なんて言葉はぼんやりとしていてばかばかしいのだけど、でもなんだか、しゃべっている内容以上に不思議な充足感があったのだ。開かれた場所で、大きなルールを作る人間と話をする。世田谷区長の人となりに触れ、保坂展人さんの考えに触れる。ルール作りとか、民主主義とかってことって、あまりに大きなことのように思えるけど、でも『誰か』が代表して意見を作る以上、それは基本的には人と人との対話なのだろう。そんなことを考えさせられた。
またこういうことができればいいな、と思う。

運営メンバーの声

Q 準備を一緒に進めてきた 一員としてシンポジウムの感想は?

今回私は、シンポジウムの準備に中心的ではないですが、関わらせていただきました。今回のシンポジウムで何を話すかを、一生懸命中心的に考えてきたメンバーの姿を間近で見てきただけに、当日にみんなが保坂区長に緊張しながらも、精一杯思いを伝えようとする姿は感慨深いものでした。みんなお疲れ様!そして保坂区長ありがとうございました!

岡田　卓朗(たくろう)くん

フューチャーハブを自分たちで新たに作るといわれても何をしたらいいのかわからなく不安だった。なぜなら、何もない空間を一から作った経験がないからだ。しかし、空間を創っていくことは、どんな場所が心地いいのか自分をちょっと知ることじゃないだろうか。そして、その場所は何かをしなければいけない場所ではなく、「感じる、思う、体を動かす」人間の根本的なものを大事にする場を作ってみたいと思い、ちょっと希望を感じた。

宮崎　武瑠(たける)くん

ノゲセイトライアングル 活動報告

最近のげ青にて実施されたショート・ロングコースの活動を報告します。

毎週水曜

ホッとな食卓プロジェクト

毎週水曜日に実施している「ホッとな食卓プロジェクト」の食事会には、小学生から大学生以上まで、幅広い世代のメンバーが参加し、おしゃべりしながら食事を楽しんでいます。
食事会がある水曜日以外にも「なにかつくって食べたい!」と厨房で料理をするメンバーの姿が見られるようになったり、12月末に開催されたクリスマス会ではケーキ、チキンの調理をプロジェクトのメンバーが担当したりと、広がりのあるプロジェクトになってきています。

10/30 11/5

学祭へ行こう!

「大学ってどんなところ?」と興味を持ったメンバーの発案で法政大学、東京都市大学の学園祭に行ってきました。大学の雰囲気を感じるとともに、メンバーが学生たちに質問してみたいことをまとめたアンケートも実施。どんな人たちがどんな思いで大学に通っているのか、学生たちの生の声に触れる機会となりました。

10/9 SUN

多摩川ねこ散歩

ねこ好きなメンバーたちが、ねこをさがしながらのげ青周辺を散策する企画。残念ながらねこは3匹しか見つかりませんでしたが(笑)、多摩川の河川敷に不法投棄されたごみを目にし、「なぜごみが捨ててあるんだろう?」と疑問に思ったり、リサイクルについて考えたりと、意外な発見のある時間でした。

10/29 10/30

のげ青お泊まり会

6月に実施したのげ青お泊り会。メンバーたちの「またのげ青に泊まりたい!」という声でまたまた実施しました。フリースペースでいつもみんなが遊んでいる「人狼ゲーム」を思う存分楽しんだり、いつもとは違ったお泊りならではの過ごし方でみんな楽しんでいました。

わかものレポ

その1
ライター / 山口　真雅(まさ)さん

昨年度も訪問した韓国のHaja(ハジャ)センター(ソウル市青少年職業体験センター)に9人のガクポラメンバーたちが行ってきました。毎年開催される「Haja創意サミット」に参加し、現地の若者たちとの交流を深めました。参加メンバーの感想文を一部抜粋して掲載します。

1年振りに訪れたHaja、みんなとの別れを惜しんだ景色をついこの前のことのように思い出した。
去年はHajaがとても進んでいる場所、そしてそこへ通う子たちは一人一人の意識が高いという印象を受けたけれど、今年も行ってみて、去年感じた印象は少し違っていたのかも、と思った。私たちもHajaへ通う子たちもみんな同じ歩幅で進んでいて、今の時代を生きる同じ若者なのだと思った。
今年もHajaに来てたくさんの経験をし、1つ1つ振り返るととても時間が掛かるけれど、まとめて言えることは、今年は9人でHajaに来てよかったということ。それぞれが色々な場面で色々なことを吸収し、疑問に思い葛藤し、それをみんなで共有し悩み共感し、行った後も充実感がある。(それぞれの視点、学びはとても面白い。)みんなが日本へ帰って来たあともHajaについて話している姿をみて私は9人で行ってよかった、と思えた。

山口　真雅(まさ)さん